

府教委、再編整備計画に基づく実施対象校を公表

募集停止校なし、工科高校3校、国際関係学科改編

府教委は8月29日の教育委員会会議で、「大阪府立学校条例及び大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画に基づく令和元年度実施対象校(案)」を公表し、11月の教育委員会会議で決定するとなりました。その内容は、工科高校と国際関係学科の改編に着手するというものです。

改編する工科高校 改編時期は2021(令和3)年度入学者から

茨木工科高校、西野田工科高校、城東工科高校

工科高校については、府教委は昨年「引き続き9校により人材育成を行う」とし学校規模は、「原則として1学年6学級35人編成」としています。2020年度から今宮工科高校、藤井寺工科高校、佐野工科高校の実施が決定しており、この3校に続くものです。

学校規模の縮小や少人数学級の実施は、この間府高教が粘り強く要求してきたものであり、教育条件の大きな改善です。しかし、「一層きめ細やかな指導を行う」というのであれば、エンパワーメントスクールや工科高校に限ることなく、普通科を含めたすべての学校でただちに実施すべきです。

国際関係学科の改編 改編時期はいずれも2021(令和3)年度入学生から

学 科	対象校
国際文化科(普通科併置)	国際教養科(旭、枚方、花園、長野、佐野)
国際文化科(総合学科併置)	国際文化科(千里、住吉、泉北)
グローバル科(普通科併置)	国際科(グローバル科)(箕面、和泉)

府教委は、現在ある国際関係学科10校について、再編整備計画に基づき、「豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力を身に付け、国際的に活躍できる人材をさらに育成させる観点」から国際文化科とグローバル化の2科に改編し、これまでの取り組みを「発展・深化」させるとしています。

「定員」を理由とした高校つぶし反対！ 府立学校条例の見直しを求める署名に全力を！！

大阪では、この6年間に「志願者が募集定員に満たない」ことを理由に、7つの府立高校の募集停止・廃校が強行されました。この背景には2012年3月に施行された府立学校条例第2条の「入学を志願する者の数が3年連続して定員に満たない高等学校で、その後も改善の見込みがないと認められるものは、再編整備の対象とする」の規定があります。しかし、そもそも子どもたちの「学ぶ権利」を保障するために設置されている公立高校の「定員」に「ゆとり」があるのは当たり前です。「定員」を理由にした高校つぶしは、子どもたちの「学ぶ権利」を奪うものであり、学校を生徒獲得競争に追い込み、教職員の長時間・過密労働の原因となるとともに、教育内容をゆがめるものです。その元凶である府立学校条例はただちに見直すべきです。大阪の高校を守る会が提起した署名に全力をあげましょう。

／／ **みんなの力で要求実現！ あなたも府高教へ！** ／／